

平成 28 年度 第 1 回宇治市公共施設等総合管理計画検討委員会 議事要旨

日時：平成 28 年 6 月 12 日（日）14 時～15 時 50 分

場 所：市役所 7 階 特別会議室

出席者：委員 10 名 事務局等 12 名

傍聴 3 名 報道関係者 2 名

1. はじめに
2. 委嘱状の交付
3. 委員の自己紹介
4. 市長挨拶
5. 正副委員長の選出
6. 議題

①計画策定の概要とスケジュールについて

- ・配布資料に基づき事務局より説明

<質疑応答>

委員長：ただいまの説明について、何かご質問、ご意見ありますでしょうか。

事務局：欠席の委員の方からは、本議題についての意見は特にございませんでした。

委員長：今日の段階では今後の計画の内容とスケジュールの説明が中心のため、本格的な議論は、次回以降に進めていきたいと思えます。よろしいでしょうか。

各委員：異議なし。

②市民アンケート調査の実施について

- ・配布資料に基づき事務局より説明

<質疑応答>

委員長：まず欠席されている委員の方のご意見を紹介したいと思います。

事務局：欠席されている 2 名の委員の方のご意見を紹介させていただきます。

10 代から 30 代の若い世代の回収率が低くなる傾向にあるため、別途出口調査やサンプリング調査等のヒアリングをしてはどうかとの意見とアンケートに公共施設の設立日や築年数などを記載してはいかがかという意見を頂きました。

委員長：ありがとうございます。欠席の委員の方のご意見も参考にしながら、各委員の方のご意見を頂き、アンケートについて議論を進めたいと思えます。皆様いかがでしょうか。

委 員：問 9 は中学校区になっているが、地域的にも馴染みのある小学校区にした方がよいのではないのでしょうか。何か中学校区にした意図があるのでしょうか。

事務局：事務局としては、現在、小学校区、中学校区など様々なコミュニティの単位がありますが、広い単位のコミュニティの区域で一旦分析を行いたいと考えています。

中学校区の数で言うと 10 地区程度ですが、まずはその程度の単位で把握していき
たいと考えています。

委員：中学校区という書き方をすると、今後の行政が中学校区単位になるような印象を
受けやすいのではないのでしょうか。小学校区としてはどうでしょうか。

委員：問 8 と問 9 とどちらも回答者のお住いの地区を聞いているという点で、重複し
ている印象を受けます。問 9 を中学校区にしている意図はあるのでしょうか。

事務局：問 8 は字ごとの単位です。問 8 だけにしてしまうと、複数の学区にまたがっ
ている字もあるため、問 9 を設けた方がより詳細に聞くことできることから、双方
の質問を挙げています。

委員：やはりアンケートの設計の意図が中学校単位での分析ということでしょうか。ア
ンケートの設計に意図があるならば、この場で認識を共有化しておく必要がある
と思います。小学校区か中学校区になるかは非常にセンシティブな議論であるた
め、一定の方針を持たないと整理できないと思います。

委員長：事務局の方から何かご説明はありますでしょうか。特になければ、今後の方針に
も関わることで、設問内容も含めてご検討頂ければと思います。

事務局：様々な意見を頂けて大変ありがたいです。これから出てくる議論も踏まえながら、
事務局でも十分に検討していきたいと思っています。

委員：一読させて頂いた印象では、このアンケートは総合管理計画を策定するための基
礎資料として位置づけられています。だとすれば、少々細かいのではという印象を
持ちました。計画の趣旨からすれば、市民の方々から全体の方向性を掴むためのご
意見を頂ければ十分なのではないのでしょうか。公共施設のあり方は理論的に導か
れるものでもないと思いますので、最終的には各地域の市民の意見も踏まえなが
ら地道に決めていくことが重要です。ただ、全体の整合性をとることも大切で
すので、この委員会の中では大きな方向性を出すことが大事だと思います。また、でき
るだけ幅広くご意見を聞くためにも、市民が回答しやすいように、もう少しシンプ
ルにしても良いのではないのでしょうか。

委員：宇治市の各団体は小学校単位で設立されています。現実として、生活は小学校区
を単位としてコミュニティが形成されているため、小学校区で聞いた方がよいの
ではないかと強く思います。

事務局：公共施設の管理計画を小学校区、中学校区など、どういう単位で整理するかは現
段階では決定していません。中学校区で計画を提示した際の、市民の印象について
も考慮する必要があります。調査段階では小学校区単位で行い、分析の段階では中
学校単位で整理することも可能ですので、調査段階では小学校区単位で実施した
いと思います。

委員：分析する上では、より細かい単位で意見収集しておいた方がよいのではないでし
ょうか。市民に向けた問題提起となるように、このアンケートをよい種まきとして

位置付けられればと思います。反対しているというわけではなく、よりよい方向に持っていくための意見を収集するための意見として、受け止めて頂きたいと思います。

委員：このアンケートでは、どういう単位でどこまで分析するのか、また基準がどこにあるのかなど、趣旨を明確にすることが大切です。単に利用頻度や利用しない理由を聞くだけでは、現状のみを把握しようとしているだけで、全てのニーズは汲み取れないのではないのでしょうか。ニーズは顕在化しているものだけではなく潜在的なものもあるため、どういう方がどういう活動で利用しているのか、活動ベースのニーズを把握する必要があると思います。

事務局：まずアンケートの趣旨は大きく分けると3つです。一つ目が、今の利用実態を知りたいということ、二つ目に、現状の財政状況を踏まえた上で、市民の方が今後公共施設をどうしたいと思っているのか知りたいということ、最後に、これからの公共施設の管理や運営手法についてどうお考えなのかを知りたい、という3つです。加えて、利用が少ない施設については、その理由も知りたいと考えています。それぞれの施設でどのような活動で利用しているかについては、各部署で情報集約している段階のため、今後の委員会で事実や数値をお示ししていきたいと思います。

委員：利用実態を調べる上で、図書館も公民館もない地区も宇治市内には点在しています。そういった地区に住んでいる市民にとっては、酷なアンケートになるのではないのでしょうか。

委員：施設がないことに対する潜在的ニーズはどう引き出すのでしょうか。

事務局：可能な限り、市民のご意見を引き出したいと思っています。どこまで意見を拾い上げるかは難しいですが、事務局としては回答者の意向をできるだけ抽出したいという意図はあります。

委員：たとえば、地区に欲しい施設という聞き方で、ニーズを把握するというのはどうでしょうか。

事務局：P7の問4に公共施設は不足しており、増やすべきであるとの設問があり、この設問で回答ができるようにしています。

委員：アンケートは記述になった場合に、回答率が下がる傾向にあります。そのため今のアンケートの設問だと欲しい施設に関しては回答しづらいのではないのでしょうか。保護者目線、またはこどもの目線等、回答する立場が変わると答えが変わる場合もあります。たとえば、キャッチボールできる公園については少なくなっているのが現状であり、小学校を開放するなどして子供の遊べる場所を作るなどもしています。今回の趣旨と逆の方向の話をしているので言い辛い部分はありますが、欲しい施設等を回答する項目を追加してはどうでしょうか。

委員：アンケートの現状説明を読むと、公共施設を減らすのみの印象が強く、全体的にネガティブな印象を受けます。アンケートの冒頭部分で、財政難や人口減少について

での説明をされると、施設の統廃合しかないという印象になってしまいます。市民参加を呼びかけるような形のアンケートにできればよいと思います。市民に公共施設の現状を知ってもらう意味でも、基礎資料として、宇治市内の公共施設の一覧も最初に設けてはどうでしょうか。

委員：現状のアンケートではアンケートの冒頭部分について、現状と課題についてあまり踏み込めていないと思います。建築物や下水道であれば耐震化や老朽化対策が進められていると思いますが、その費用としていくらかかっているのか、これからどれくらいかかるのか、将来世代の負担がどの程度になるかを整理し、提示する必要があるのではないのでしょうか。

委員：行政として、必要な施設や困っていることを恐れずに聞くことも大事だと思います。多様なニーズを把握しておかないと最終決定の段階で方針を決定しにくいということが出てくるのではないのでしょうか。要望が出たから、その施設を作りましょうということにはならないことは理解していますが、シビアな選択と集中を行うためにも、みんなが公共施設をどのように思っているかを聞くことが一番大切だと思います。

委員：国の施策として公共施設の総量削減という方向性だということは国が滅びないために必要な施策だと理解していますが、自治振興課が年 2 回のアンケートをとっていると聞いたので、そうしたデータも活用されてはどうでしょうか。

事務局：アンケートについては、国の指針や先進例として他の自治体が実施したアンケートを参考にしながら作成した経緯があります。たとえば、問 3 の設問では、拡大、増やすという選択肢を設けていますが、こうした選択肢は、他の団体では見られない設問です。本市としては施設を減らすばかりでなく、増やすという趣旨の設問も入れていることをご理解頂きたいと思います。ただ、現状のアンケートでは設問の聞き方や聞く場所が悪かったりするため、もう少し工夫したいと思います。

アンケート冒頭の現状調査部分については、維持管理、コストがどれほどかかるについては現在調査中です。そうした調査の結果を提示した上でアンケートをとるべきなのか、アンケートのタイミングについては検討しましたが、まずは市民の方が公共施設についてどう思っているかを聞きたいと考え、最初の段階でアンケートを実施することにいたしました。

また、別のアンケートの結果も活用できるものは活用していきたいと思います。

委員：理想と現実とは異なるのは当然で、まず理想を語る、一方で現実を直視すること、どちらも大切だと思います。どんな回答であったとしても、正直なニーズを聞くことがとても大切です。財政負担や人口減少を冷静に現実問題として捉えると、やはり総量削減は避けて通れません。総量を残すことが本当に必要かは考えなければなりません。たとえ総量削減したとしても、質を落とさないためのアイデアと知恵を出し合うために、まずは各委員が理解しておかなければなりません。この管理計

画を策定するというプロセスからすれば、減らす方がよい、増やす方がよいというのは聞く必要がないのではでしょうか。極論、現状をどう考えているのか、そして今後はどうあってほしいのか、この2点を聞ければ十分なのではないでしょうか。

委員：一市民の立場からしますと、財政面を考えた場合に施設総量を減らすことは必要だと思いますが、建設的な話をしながら、残したい施設、増やしたい施設という意見があつてこそ、どういう施設を減らした方がいいという議論も理解が得られやすいのではないのでしょうか。

委員：小学校区をコミュニティ単位として活動しているため、問9の設問は小学校区で調査して頂きたい。

委員：恐れずに率直な意見を聞くことが大切です。行政が決めて実行するではなく、市民に負担してもらうことになるという視点を理解してもらおうと進めやすいのではないかと思います。

委員：増やした方がよいと思っているわけではなく、増やせないことは分かっています。この場での共有認識が必要です。公だけでなく、民間の活躍の場が広がっている中で、公共施設をこれからどうしていくか、行政だけでなく、皆で一緒に考えていきましょうというアンケートにしてはどうでしょうか。

また、学生たちにどの公共施設を使ったことがあるかと聞くと、公民館についてはほとんどの学生が使ったことがないと答える一方で、スポーツクラブや自習室が欲しいとの声は多くありました。一方で、高齢者が民間のスポーツクラブを積極的に使用していたりするといった現状もあり、意外なところで違う世代の方のニーズが重なる部分もあります。世代をブリッジできるような、皆で考えるというトーンアンケートにしていけたらと思います。

委員：生涯学習センターを利用させて頂いたことがあります。ボランティアの登録が多いと聞きました。経験豊富な年配者等、何かを伝えたい人がいる一方で、子供たちのように、伝えてもらうことを望む人たちもいます。そうしたニーズも汲み取ればよいのではないのでしょうか。

委員長：様々なご意見、ありがとうございます。この場でアンケートを実際に修正するという大変な作業をすることは難しいので、今の議論を踏まえた上で事務局に検討して頂きたいと思います。

委員：P2の人口推計値は第5次総合計画を示していますが、この推計は実態にあっているのでしょうか。努力目標を提示されるとリアリティがないことにコミットできないという時代の風潮もありますので、ここで確認させて頂きたいです。

事務局：第5次総合計画の策定段階では平成27年度は推計値でしたが、アンケートに記載の平成27年度は実績値を掲載しています。

委員：このアンケートでは、人口減少、高齢化が進むため、公共施設は減少させる方向という結論にしか見えません。人口構成と今後の推計をみますと、高齢者向けの施

設は増やし、若年層向けの施設は減らすという方向になってしまいます。現状を踏まえた上で、様々なご意見をお聞かせくださいというトーンにできればと思います。

委員：高齢化率が上がったからといって、介護率が増えるわけでもありません。高齢者が元気で、地域で活動できるような工夫があれば、必ずしも施設を増やす必要はないと思います。

委員長：現状の読み解き方が大切ですね。説明の仕方や資料の出し方については、事務局の方で工夫して頂きたいと思います。

委員：アンケートの期限が7月15日というスケジュールを考慮しますと、大幅な変更は難しいと思います。資料2をみますと、市民への説明会や意見交換を行う機会が設けられていますので、アンケートだけでなく、市民への説明会や意見交換を行う場などで、幅広いご意見を聞くことも必要と考えます。

委員長：様々なご意見ありがとうございました。市民との直接の意見交換については事務局とも今後の委員会で検討していければと思います。副委員長、何かご意見はありますでしょうか。

副委員長：このアンケートですと、量が多いという印象を受けます。これだけ細かく書いてあると意見が偏りすぎることも考えられるため、シンプル化する方がわかりやすくてよいのではないのでしょうか。

委員：利用実態についても各所管課で調査していると聞きましたが、そうすると今回のアンケートとの設問と重複しているのではないのでしょうか。利用している施設、しない施設を回答してもらい、一方でまったく使わない施設は何か、その理由も含めて聞くだけでもよいのではないのでしょうか。

委員：今後改修する費用と、アンケート結果についてはいつ頃に提示してもらえるのでしょうか。

事務局：更新シミュレーションについては、数値の精査を行った上で、8月下旬の次回の委員会にて提示したいと思います。それと同時に、アンケートの分析結果についてもお示しできればと思います。

委員：委員会の開催前に資料を事前に見せて頂きたいのですが、1週間前に手元に届くよう送付して頂くことは可能でしょうか。

事務局：次回の資料については、1週間前には資料を送付したいと思います。

委員長：資料の事前送付は大変な作業になるかと思いますが、余裕をもって事前に資料を送付して頂くようお願いしたいと思います。

事務局：アンケートに対する様々なご意見ありがとうございました。できる限り修正し対応したいと思います。今回のアンケートの趣旨は、市の現状をどう捉えているのか、公共施設のことをどう思っているか、というご意見を収集したいということです。一番大切なのは、公共施設を減らすということだけではなく、これから施設をどう

していくかを市民の方々と一緒に考えていくことです。市民の方への説明会や意見交換などを通じて、出来るだけ市民のところに出向いて計画を策定していきたいと考えています。また、問9については、小学校区に変更し、アンケートの構成はできるだけわかりやすくシンプルになるように修正したいと思います。

委員長：それでは、議事については終了させていただきます。ありがとうございました。

【質疑終了】

10. 閉会

・木村副市長より挨拶

以上